

上田市地域づくり人材育成講座 2019 第 3 回

「防災における行政と市民の協働—情報の共有と提供—」 報告



グループワークより「地域防災 Web」を囲んで意見交換を行う様子

【1】講座概要

<概要>

上田市地域づくり人材育成講座 2019

第 3 回 「防災における行政と市民の協働—情報の共有と提供—」

主催：上田市／共催：長野大学

日時：11/29（金）14:00~16:00

会場：長野大学 4-104 教室

<タイムテーブル>

14:00~ 本日の講座のねらい

前川道博（長野大学企業情報学部教授）

14:05~ 豊野のマップ作りと防災

水野博史（ジオナレッジ合同会社）

14:30~ グループワークと意見交換

15:50 まとめ 前川道博

16:00 終了

【2】講座報告



ジオナレッジ合同会社 水野博史さんによる講座

前回の第2回講座では、現状として、どのように行政と市民と若者が共同して自治会が作られているのかについて意見交換を行った。今回は、「防災における行政と市民の協働」と題し、現状をどう活かしていけるかについてグループワークを行った。

はじめに、ジオナレッジ合同会社からお越しいただいた水野さんから「地図を使うコンサルタントで創業して4年目」というような会社の業務説明があった。また前川先生とはデータを活用した地域課題解決に向けて協働しているという話があり、地図情報を活用した人口減少問題の解決に向けた取り組みについて話して頂いた。

その中で、「地図情報をなぜ行政等で利用しないのか？もっと活用して欲しい。いざ持っても利用しない」という訴えがあった。そうした話をしたうえで、地図情報を活用した豊野地区の活動が紹介された。住民が主体となり行政がサポートする運用スタイルで避難誘導計画策定委員会が作られ、住民が自らの意欲でデータ上に登録し活動していくことが必要だという話であった。ここで問題になるのが、住民が「自分の地域には何もない」と思ってしまうという現状。この課題を、防災マップを作る事により打破したいと思った水野さんは、「デザイン思考」という考えに至り、避難ルートや危険区域の理解が広まり、「豊野マップ」をみんなでわいわい一緒に作るというイベントを開催している。

豊野マップの事例を紹介していただく中で、「データマップ作りによる地域振興」を通して、地域マップを作っていくことで自らの地域における理解を深まるのを感じた。

グループワークでは防災における行政と市民の協働をテーマに、すぐに使える防災サイトの紹介、若者からの情報提供、意見交換と3つのパートに区切って進行された。

すべてのテーブルにタブレットが配られ、学生によって防災サイトの「地域防災ウェブ」の細かい操作の説明がなされた。



(「地域防災 Web」より 引用：<https://chiiki-bosai.jp/>)

このサイトは住んでいる都道府県、市区町村を入力することにより住んでいる自治体の指標となる様々なグラフが表示される。

そこには、各自自治体における「30年以内に震度6弱の揺れに見舞われる確率」や「地域の液状化の可能性」等の確率が表示された。私が住んでいる地域の地震の可能性は29.6%であり火山地形は79.2%、土砂災害危険箇所は121箇所と表示された。こうしたデータを見て、グループでは「危険な状態でいつ地震や土砂崩れがあっても良いように準備しようと思う」や「サイトが見えにくいし理解しにくい」等の意見が出た。

【3】 アンケート集計結果（ご意見ご要望欄を一部抜粋）

- ・ マップ作りに関してもっと知りたいと思った。できれば作ってみたいと思った。
- ・ 豊野の取り組みに興味を惹かれたので参考にしたい
- ・ デジタルマップの作成、活用方法、応用展開について住民一組織毎に講座展開して欲しい
- ・ 成果品をしまっておかずに活用することが重要
- ・ 次回の実習を経験したい
- ・ 豊野マップの防災マップからいいところマップへの繋げ方は興味を惹かれた。

（報告者 仲間 光輝 長野大学前川ゼミ4年生）